

いまこそ update ! 皮膚悪性腫瘍の治療 part 2

企画にあたって

形成外科では、皮膚腫瘍手術が最も件数が多く、皮膚悪性腫瘍の手術は基本的な日常の診療行為の1つです。近年の悪性腫瘍は全般的に、悪性腫瘍の治療法や薬物療法の進歩や予後調査のデータの蓄積に伴い、切除縁は縮小する傾向にあり、リンパ節郭清が適応とされるケースも減少する傾向にあります。皮膚の悪性腫瘍も、治療法の進歩や再発率や予後などの臨床データの積み重ねに伴い、同様に以前よりも推奨される切除縁が縮小し、リンパ節郭清の適応ケースも少なくなる傾向にあります。また外科的切除が第一選択でない皮膚腫瘍もあります。にもかかわらず、古い取り扱い規約に従った治療がいまだに多く散見されます。

本特集は形成外科医が日常的に扱うことの多い皮膚悪性腫瘍の、取り扱いや治療法の進歩、切除縁や郭清の適応などについて、各部門のエキスパートの先生方に最新の治療方針を中心に解説していただく企画としました。疾患が多いため part 1 と 2 に分けました。

今回の Part 2 は、皮膚悪性腫瘍の中では頻度が比較的低く、治療方針に悩みやすい腫瘍を取り上げました。取り扱い規約のない脂腺癌、隆起性皮膚線維肉腫の最新の治療方針、そして乳房外 Paget 病についてはエキスパートの先生に最新の知見を、上皮内癌については手術以外の治療法を執筆いただきました。できるだけ侵襲の少ない治療を目指すとともに、皮膚悪性腫瘍の知識の update に役立てていただければと思います。

編集責任者

大阪みなと中央病院 細川 互

編集協力者

大阪医療センター形成外科 吉龍 澄子